

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 72人

② 算数 72人

5 留意事項

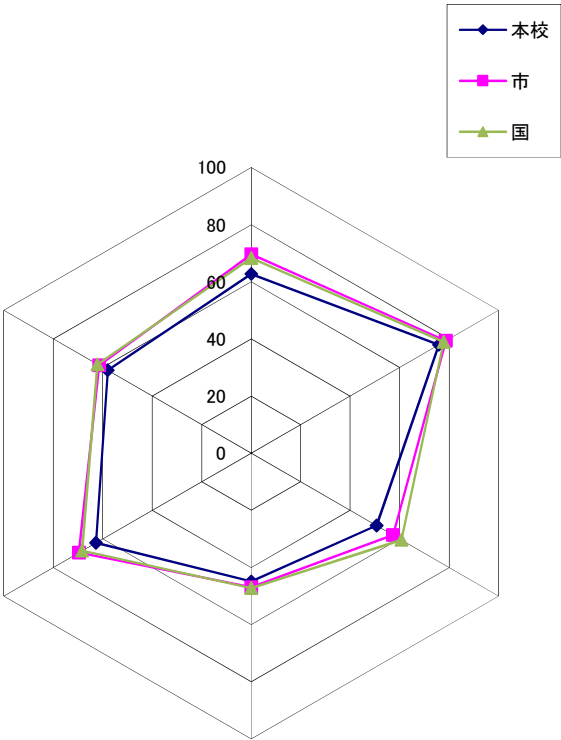
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.7	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	75.9	78.7	77.8
	B 書くこと	50.7	57.3	60.7
	C 読むこと	44.9	46.9	47.2
観点	知識・技能	62.7	69.6	68.3
	思考・判断・表現	58.0	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

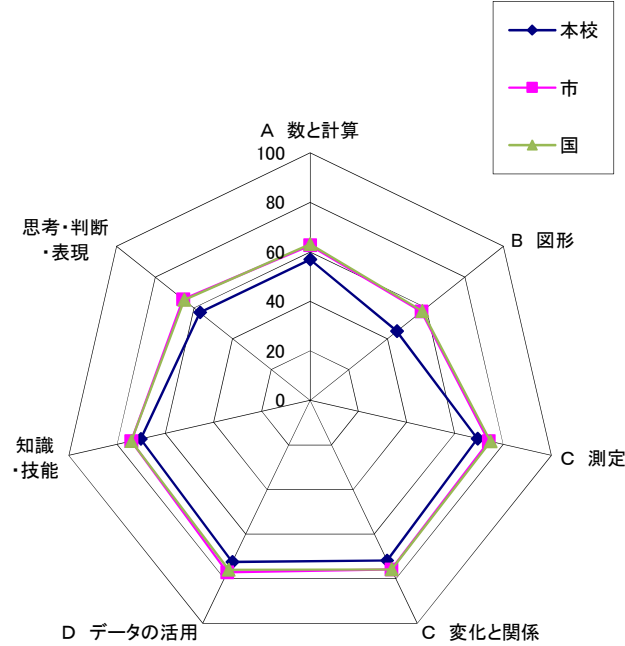
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ○文章の中で修飾と被修飾との関係を捉える設問では、国の平均正答率を上回った。低学年のうちから言葉に注目させ、発達段階に応じた学習を積み重ねてきた成果だと考えられる。 ●漢字を文の中で正しく使う設問では、正答率が60%～70%であり、課題が見られる。	・既習の漢字の読み書きについては、小テストや50問テスト、漢字オリンピックの機会を活用し、反復練習をして習熟を図る。 ・新出漢字を学習する際に、辞書を使って調べさせる機会を設けることで、漢字のもつ意味や成り立ち、その漢字を使った熟語などに触れさせる。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同程度である。 ○目的に応じて話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることはできている。朝のスピーチや、総合的な学習の時間を中心とした一人一台端末を活用してのプレゼンテーションなど、考えをまとめて発表する機会を多く設けている成果だと考えられる。 ●資料を用いる目的や目的に応じて資料を使うことに関する設問では、理由を明確にして資料を選択することに課題が見られる。	・どうしたら自分の考えが相手に伝わるかを意識しながら構成を考える機会を、意図的に作っていく。 ・資料を効果的に活用して発表する機会を、総合的な学習の時間にも設ける。自分が何を伝えたいのか、どんな資料があれば説得力があるか、それに合った資料を選択する。ただ発表するのではなく、より相手が理解できるようなものを準備するようにさせる。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均より低い。 ●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを問う設問では、国の正答率を下回った。条件に合わせて書くことに課題が見られる。	・内容を整理しながら決められた文字数で書くなど、条件に合わせて書く活動に慣れさせる。 ・朝の学習の時間や、国語の「書くこと」の学習の時間を中心に、自分の考えを明確にし、それを文章に表現する機会を多く設ける。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均よりやや低い。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する設問では、国、県の平均正答率を上回った。説明文の学習の際に、発達段階に応じて要旨を捉えさせるための指導をしている成果だと考えられる。 ●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける設問では、正答率が27.8%で、県の平均正答率を5ポイントほど下回った。	・学校生活において、文章中に用いられている図表が、文章のどの部分と関係があるのかを明確にさせ、文章と図表との関係を捉えて読むことができるよう指導していく。 ・これまで同様、類似問題や国語ドリルの問題を活用して、説明文や物語文を読む機会を意図的に取り入れ、短い時間で読んで内容を理解するスキルを身に付けさせていく。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	56.9	62.6	63.1
	B 図形	44.9	57.5	57.9
	C 測定	69.4	74.1	74.8
	C 変化と関係	71.8	75.8	75.9
	D データの活用	72.5	77.1	76.0
観点	知識・技能	70.2	74.1	74.1
	思考・判断・表現	56.9	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は市や国の平均より低い。 ○商が1より小さくなる等分除の場面で、場面から数量関係を捉えて除法の式に表し、計算することができている。 ●基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述する問題では、正答率が40%程度で、割合の理解に課題が見られる。	・基準量を1としたときにいくつに当たるかという倍の意味について理解する際には、テープ図や線分図などを活用し視覚的に捉えるなど、数の表し方の仕組みや数の構成する単位に着目する活動を授業に取り入れるようにする。
B 図形	平均正答率は市や国の平均より低い。 ●直角三角形の面積を求める問題では、平均正答率が40%であり、三角形の面積を求める考え方の理解に課題が見られる。	・公式を使って面積を求めるだけでなく、式や言葉で面積の求め方を説明できるように指導していく。 ・図形を構成する要素などに着目して図形の構成の仕方を捉えるようにしていく。
C 測定	平均正答率は市や国の平均よりやや低い。 ○条件に合う時刻を求める問題では平均正答率が90%で、市や国の平均をやや上回っている。	・今後も時間や時刻を意識した生活をする中で、実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は市や国の平均よりやや低い。 ●2つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ問題では、単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味を捉えられていないと考えられる誤答が約23%、求めた商から速さを誤って比較したと考えられる誤答が約20%であり、課題が見られる。	・図や絵などを用いて具体的な場面に対応させるなど、目的に応じた処理の仕方を工夫できるようにしていく。 ・速さを求める除法の式と商の意味を考えさせる際、数直線に表したり、図で確かめたりするなど、速さの比べ方の感覚を身に付けさせるようにする。
D データの活用	平均正答率は市や国の平均よりやや低い。 ○データを2次元の表に分類整理する問題では、平均正答率が70%を超え、市や国の平均を上回った。 ●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合について記述する問題では正答率が44%、無回答も約20%で、課題が見られる。	・グラフを見て数字を読み取るだけでなく、項目についても説明したり記述したりする指導を取り入れていく。 ・他教科の学習でも、統計的な問題解決活動の機会に算数科の学びを生かしていく。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問には、100%の児童が肯定的回答をしている。また、「人が困っている時は、進んで助けていますか」という質問の肯定的回答が90%を超えていることなどから、他人を思いやる気持ちが強い児童が多いことが分かる。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」という質問には、100%の児童が肯定的回答をしている。また、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問の肯定的回答が90%を超えており、市の平均よりも14ポイントも高いことなどから、話し合うことへの抵抗を感じる児童が少なく、相手の話や意見を大切にしたいと感じている児童が多いことが分かる。

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問の肯定的回答は91.9%で、県の平均より10ポイント高い。本校の特色であるキャリア教育の成果が表れていると考えられる。

○「朝食を毎日食べていますか」という質問の肯定的回答が95.9%で、県の平均をやや上回っている。また、「新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」という質問で肯定的回答79.7%で、県の平均より11.4ポイント上回っていることから、各家庭での生活環境が整っていることが考えられる。

○「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」という質問では51.3%で県の平均より9.1ポイント高い。また、「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という質問では肯定的回答が97.5%で県の平均よりやや高かったことから、本校の学校課題である「ICTを活用した学習活動の工夫」の効果が表れたと考えられる。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問では、共に90%以上の肯定的回答が得られ、県の平均よりも上回っている。

●「自分の考えが相手に伝わるように組み立ての工夫をしたり、まとめたり、伝えたりするなどの活動をする」ことに関する質問の肯定的回答がいずれも県の平均より2～9ポイント程下回っている。自分の考えや思っていることを伝えることが苦手と感じている児童がやや多いと考えられる。

●「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」という質問では、「0～25冊」と回答した児童が47.3%もあり、県の平均より本が少ない家庭が多いことが分かる。また、「新聞を読んでいますか」という質問では、県の平均と同様に、新聞をほとんど読まない児童が多いことが分かる。今後は、さらに図書室を活用したり新聞を身近に感じさせるような工夫をしたりする必要がある。

宇都宮市立清原東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICTを活用して児童が主体的に学習に取り組む授業の工夫	学習過程での情報収集、整理分析、情報共有、表現するといった学習場面に応じたICT活用の工夫。 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い。 ・考えや調べたことを提示しながらの話し合い活動。	ICT機器の活用については、「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した割合が高く、県の平均を上回っている。また、「勉強の役に立つと思いますか」の質問に、「役に立つと思う」と回答した児童の割合が75.7%で、県の平均を上回っている。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	6月と11月と2月に「家庭学習強化週間」を実施し、「家庭学習カード」に学習時間を記入したり、学習内容を記入したりするほか、保護者の励ましや助言などを書いてもらったりして提出するよう指導する。	「学校の授業時間以外に、月曜から金曜日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の質問に、「1時間以上2時間未満」と回答したのは50%であった。県の回答を3.3ポイント、国の回答を14.4ポイント上回った。「30分以上1時間未満」と回答したのは20.3%で県や国と同程度であった。